

## 外国語活動

### 英語を使ってコミュニケーションを楽しむ子どもを育てる ーモジュールタイムでの英語活動を通してー

大阪市立海老江東小学校 上地勇喜  
室 志保  
前 輝明

#### 1. これまでの主な取り組み

- (1) 全学年での外国語活動の実施
- (2) 外国語活動年間指導計画の作成と見直し
- (3) 楽しみながら英語に慣れ親しむ活動や学習内容の工夫
- (4) 全学年が **NS** とコミュニケーションをとれる場の設定
- (5) 教職員全員での「**Hi, Friends!!**」や1～4年生の外国語活動のスモールカード作りなど、教材・教具の開発と作成

#### 2. 今年度の取り組み

##### (1) モジュールタイムの実施

全学年で、毎日モジュールタイムを設定し、そのうち週3日を **AB** タイムとして、英語の歌やジングルを歌ったり、絵本を聞かせたりするようにしました。また、モジュールタイムの残りの2日間は、視写や計算・漢字の反復タイムにするなど、学年に応じて行うようにしました。

**AB** タイムの活動の流れは、全学年同じように、

1. **Songs&Chants** (歌・チャンツ)
2. **Phonics Jingle** (フォニックスジングル)
3. **Book** (絵本)

の順番に行うようにしました。そして、フォニックスジングルや絵本を1つのパワーポイントにまとめたり、それらをパソコンを使って各教室に設置してあるプロジェクターで黒板に映したりしました。このような工夫をしたことで、教員全員がいつでも簡単に **AB** タイムの活動がスムーズにできるようになりました。

##### (2) **AB** タイム年間指導計画と教材・教具の作成

各学年の **AB** タイム年間計画を外国語活動年間指導計画に沿って作成しました。

まず **Songs&Chants** は、『**Genki English!!**』という教材の中から外国語活動年間指導計画の各単元に出てくる英語表現に慣れ親しめるような歌を選んでいきました。また、**Book** (絵本) は、英語表現の長さや難しさに応じて、各学年に合う絵本を選ぶようにしました。その後、外国語教材グループを中心に、パワーポイントへの貼り付けやサウンドの挿入を行い、デジタル化していきました。

**AB** タイムのスケジュールは、1タームで4週間とし、1年間でⅠ～Ⅷまでの8タームを行いました。そして、1タームをA・Bに分け、それぞれ4回ずつ行う **Songs & Chants** や **Phonics jingle** は、その難易度や学年の状況に応じて、AとBで違うものをしたり、**AB** 続けて8回同じ歌を歌ったりしました。また、学校行事などで **AB** タイムを実施できない時があることも考慮し、1タームごとにフリー(予備)を設け、実施できなかった分をしたり、復習をしたりできるようにしました。

### (3) 外国語を通してコミュニケーションを楽しむ指導・活動の工夫

外国語活動では、子どもたちが英語表現を使って、友だちや **NS** と互いの思いを伝え合うことにより、コミュニケーションの楽しさを知り、その大切さも実感できるようにすることがとても大切です。そこで、**AB** タイムや外国語活動の時間で慣れ親しみ、身に付けた英語表現を使ってコミュニケーションを図ることにより、その楽しさを味わうことができる学習内容や指導方法を工夫しました。特に、コミュニケーションをとる時間では、**NS** と会話することのできる時間をできるだけ多くとれるような活動を行いました。

### (4) 笑顔があふれる学校

現代の生活の中では、英語表現は日本語と同様に日常的に使われています。そこで、普段の学校生活の中でも、英語表現の音声やリズムに慣れ親しむことは、英語を身近に感じるようになるうえでとても重要であると考え、英語が今まで以上に身近に感じられるように、「英語があふれる学校づくり」に取り組みしました。

- ① 特別教室や階段などに英語を使ったカードを掲示する。
- ② 全学級統一して月・日・曜日・天気などの英語表現のカードを掲示するとともに、朝のあいさつを英語で行う。
- ③ 情報委員会による登下校時の学校放送を、英語を使って行う。また、掃除の時間の音楽なども『**Genki English!!**』の中から選んでかけるようにする。
- ④ 児童集会において、学期に1回、**NS** による英語集会を行う。

## 3. 成果と課題

### (1) 成果

- ① **AB** タイムを実施したことで、外国語活動において、英語表現に慣れ親しむ時間が短縮され、**NS** や友だちと会話する時間が増えるなどコミュニケーション活動が充実しました。そして、そのことは、英語への自信となりました。
- ② **Phonics jingle** を言ったり、絵本を聞かせたりしたことで、英語の音声だけでなく、文字にも慣れつつあります。
- ③ 掲示や放送、集会などで英語があふれる学校づくりに取り組んだことで、子どもたちの中では、英語の掲示があったり、英語の放送がかかったりすることが学校生活で自然になりました。

### (2) 課題

- ① 1年生から6年生までの外国語年間指導計画と **AB** タイム年間指導計画の見直しをし、さらに系統性のあるものにしていく
- ② 今後、外国語活動が5・6年において教科になることをふまえ、外国語活動の評価方法を検討する。